

Pregnant...

VOL.2

赤ちゃんと家族に寄り添う 産科医療について

大切な赤ちゃんのことが ここまでわかる！ 「出生前診断」の「超音波検査」

検出率も高い超音波検査

「高齢出産だけど大丈夫かな...」
「自分の病気が赤ちゃんに遺伝しないかな...」
「流産したので次の妊娠が不安...」
など、妊娠中のママは様々な不安を抱えています。昨今、こうしたニーズから高額な「NIPT」検査が産婦人科以外の未認可施設で提供されることも増え、その検査結果だけをもちて健康かもしれない赤ちゃんを中絶するケースもあります。こうした不幸な事例を防ぐためにも、今回は出生前診断における「超音波検査」のお話をさせていただきます。

当院で妊娠11週から13週の「初期胎児ドック」で行う「初期超音波検査」



顔や手足の特徴から内臓疾患まで超音波検査は全身のチェックができます。

「検査」は、ママのお腹の上から15分以上赤ちゃんを観察しています。胎児の心臓をはじめとした臓器や頭蓋脳の形成、手足、骨の形成、血流、胎盤の状態などから、染色体異常、遺伝子異常だけでなく胎児の様々な病気についてスクリーニング(選別)が可能です。首のむくみから染色体異常や心疾患の可能性を探るNT測定以外にも、多くの超音波ソフトマーカーを検査することでさらに精度の高い結果が得られ、また、赤ちゃんの全身の病気を調べられることも利点となります。これに母体血清マーカー「オスカー検査」を組み合わせることでより精度を上げることが可能です。(※1)

「見える」ことで深まる愛情

超音波検査と言っても、様々な条件により、見えるものは異なってきました。そもそもイギリス胎児医学財団が認定する資格がなければ初期の超音波胎児ドックを行うことはできま



兵頭 麻希 院長

県立広島病院、県立安芸津病院、土谷総合病院、広島大学病院などの産婦人科を経て、2019年5月に「母と子のまきクリニック」開設。日本産婦人科学会認定産婦人科専門医・指導医 日本人類遺伝学会認定臨床遺伝専門医・指導医 イギリス胎児医学財団認定資格ほか。

せん。超音波検査装置のスペックのみならず、医師自身の技量と遺伝の病気の知識が必要不可欠です。また、仮に胎児に異常が見つかった際にもその先の予測を立て、各専門分野と協力して最良の医療を提供できなければ妊婦さんは不安なままですから、綿密なカウンセリングのうえ、先々の治療方針までを説明してくれる医院選びが大切です。

お腹の中で赤ちゃんがどうなっているかわからない時期にその様子を見ることができるとは、ママとパパの赤ちゃんへの愛情を深めます。父性の芽生えのきっかけとなり、妊婦さんを労わる気持ちやご夫婦の絆も強くします。何より超音波胎児ドックはご家族と赤ちゃんとの絆の始まりとなり、安心感を与えてくれるでしょう。当院では、遺伝カウンセリングでひとりひとりの赤ちゃん、ご家族とゆっくり向き合っていきます。どんな不安も気軽に相談ください。

※1 妊娠14週以降は「中期胎児ドック」を行い、15週〜20週に「クアトロテスト」を組み合わせてみます。

母と子、すべての女性と 家族の幸せを育むためのクリニック

産科、婦人科領域の一般診療に加え、「遺伝医療」を専門とした診療を行います。



母と子のまきクリニック

tel.082-264-1105

広島市南区京橋町2-24 ロイヤルエント広島駅前3階

母と子のまきクリニック



中四国初!
出生前診断の
専門クリニック

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:30~12:30	●	●	●	●	●	●	●
13:30~18:00	●	●	●	●	●	●	●

※受付時間:午前12:00まで 午後17:30まで
※休診日:水曜日・日曜日・祝祭日・第3土曜日